cbf-pv\_20190328.mg4から

（コミュニケーションバリアフリーってなに？）

皆さん、ご存知でしょうか？

日本には、耳の聞こえない人、聞こえにくい人が

およそ 2,000 万人います。

これは国民の 6 人に 1 人の割合です。

全世界では 4 億 7 千万人もの人々が「聞こえ」に問題を抱えています。

「聞こえ」はとても身近な問題

オフィスでは、後ろから呼ばれても気づきません。

病院やクリニックの待合室で名前を呼ばれても気づきません。

日々の生活。車のクラクションに気づきません。

会議の進行についていけない場合もあるので内容を教えて欲しいです。

薬局や病院で医療従事者のマスクを外して口の動きを見せて欲しい。

災害時の緊急事態では状況がわからないので

お知らせ内容を教えてほしい。

電話が取れないため、周囲のサポートが必要です。

ナースコールで緊急連絡したら、直接来てほしいのです。

病院の予約変更や薬の問い合わせはメールでなく電話対応のみが多いです

このようなことが続くと社会から隔離されたような

寂しい気持ちになってしまうこともあります。

困りごとを解決したい

日常的に困りごとが多いと外出すら億劫になり、

ますます消極的な気持ちになってしまいます。

「聞こえないことによる生きづらい社会課題を解決していきたい。」

「そうだ！」

「みんなで力を合わせて立ち上がろうよ！」

そこで私たちは、これらコミュケーションにあるバリアを解決すべく

2015年10月コミュケーションバリアフリープロジェクトを立ち上げました。

コンセプトは「気づきをカタチに、マイナスをプラスに」

立ち上げ当初は社内でも

「ニーズがない」

「バリアフリー対応は手間がかかる」などの意見もありましたが、

全ての人に必要な薬の情報を伝える想いは

みんな同じだったと気づきました

聴覚障がいをもつ当事者ならではの目線を活かし、

製薬企業として社会に貢献したい。

誰もがポジティブに生きていける世の中にしたいという想いを伝え、

一人、また一人と

メンバーや応援してくれる人が増えていきました。

シオノギには「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」

という基本方針があります 。

塩野義三郎は、

大阪府立生野聴覚支援学校設立の後援会員名簿に名を連ね、

聴覚障がい者への支援を行っていました。

CBFプロジェクトは、

従業員のために、

医療従事者のために、

患者さんのために

という 3 本柱を軸に、様々な活動を行っています 。

会議の時など会話がわかるように音声を認識し、

リアルタイムで文字化するアプリUD トークを導入し、

社内の情報保障を整備しました。

年頭の社長メッセージのビデオに字幕を入れることで、

「わからなくて当たり前」という

聴覚障がい従業員の疎外感がなくなり、

周りの社員との一体感が生まれました。

障がいを持つ患者さんもバリアフリーで受診できるよう

医療機関向けセミナーを各地で開催しています。

誤解が多い食間・食前を子どもでもわかりやすく漫画で説明した

服薬説明ポスターを作成し配布しています。

聴覚支援学校でも聞こえない子供たちへ

働き方講座を実施しました。

ほかにも検査技師の放送指示が聞き取れないため、

胃バリウム検診の流れをイラストで説明したポスターなども制作しています。

TV放送の「ミュージックフェア」内での市販薬 CM において

字幕付き放映を開始しました。

当事者の自己表示ツールとして、

様々な文言を用意した耳マーク、

筆談マーク入りのしおりカードを用意しました

どなたでも来館しやすい窓口づくりとして耳マーク、

補助犬ステッカーを塩野義製薬本社受付に設置。

などのバリアフリー活動を展開しています。

これまでの活動の中で、たくさんのご意見やご感想をいただきました。

CBFセミナーに参加した医療従事者からのコメントです。

医療機関としていろいろなコミュニケーションの方法を備える必要性を感じた。

「分からないからもう一度言ってください」と言ってくれた難聴者の方、大きな勇気を持って言っていたのだと気づくことができた。

聞こえについて、余りにも知らないことが多すぎた。誤解していた。などなど多くのご意見をいただきました。

コミュニケーションバリアフリープロジェクトの最終的なゴールは、

医療機関、製薬業界だけではなく、

社会全体で障がいの有無に依らないカタチを実現させることです 。

誰一人取り残されないために

シオノギ コミュニケーションバリアフリー プロジェクトの挑戦は続きます。

「気づきをカタチにマイナスをプラスに」を実現させるために。